

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第一話

### 「新冠会所と墓石について」(要約文)

新冠駅から判官館のトンネルをすぎ、歩いて5分くらいの線路沿いに、3基のお墓が小屋に入っていることがわかります。このお墓には戒名が刻まれており、江戸時代後半の古いお墓であることが判明しています。

江戸時代、判官館の裏は松前藩が設置した「会所」という場所でした。ここは、「商場(あきないば)」と称され、松前藩の家臣が交易を行っていた所です。その後、交易の直営は商人に任せられるようになり、この場所を請負って経営していました。会所という建物を中心として、旅人を宿泊させる「旅宿」、大切なものを保管する「蔵」、漁労で得られた魚を保存する「魚小屋」、交通のために使う馬を飼育するための「厩



新冠会所跡近くにある墓石

(舎)」などの建物があったとされています。海がすぐ近くにあったことから、コンブやナマコ、タラが獲れ、アイヌの人が作った衣服やクマの毛皮なども取扱っていました。また野菜畑まであり、大根、ネギ、インゲン豆、シイタケなどが作られ、多くの産物を介する交易の場として栄えました。

明治時代になると、商人の請負制は廃止となり、新冠会所の名称は、「本陣」、「旅籠屋」、「駅通所」と次々に改称され、業務内容も少しずつ変わっていきました。明治15年、駅通所も廃止となり、会所時代から約150年以上も栄えた場所が終わりを告げることとなります。

さて冒頭で紹介した古い墓石。これには、「大崎千蔵一天保十三壬寅五月」、「性善院淨心湛応居士一石坂氏一安正五戊午五月」と刻まれています。これらは何のお墓かというところ、様子町にある等樹院というお寺の霊簿を紐解くと、新冠会所で勤めていた武士のお墓であることがわかりました。階級は「足輕」ということも判明しています。

約150年以上もの間、風雪に耐えてきた墓石。かつて栄えた会所の無い砂浜を、どのように見つめているのでしょうか。古くは老たちは今でも「会所前」という言葉を口にしてはいますが、今ではすでに失われつつある言葉のようです。しかし、私たちは新冠の歴史を語る時、会所とともに先人の残した墓石のことを永く語り伝えていきたいものです。

## ～海や山 約束守ろう 水遊び～

- 絶対に子供から目を離さない。
- 水深が浅いから大丈夫とは考えない。
- 天候を考えて、早めに切り上げよう。

「安全で楽しい水遊びをして、夏の思い出を作りましょう。」

消防署新冠支署

### 火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
4月	0件(0件)	25件(26件)
30年1~4月	0件(3件)	104件(87件)

  

### 交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
4月	0件(2件)	0人(0人)	0人(3人)
30年1~4月	2件(2件)	0人(0人)	3人(3人)

## 人のうごき

(平成30年4月末現在)

人口 5,604人 (前月比 +29人)  
 男 2,743人 (前月比 +16人)  
 女 2,861人 (前月比 +13人)  
 世帯 2,764世帯 (前月比 +16世帯)